



## 芸術的レベルにまで高められたアンプ群 天才が放つ「アナログ・マスターサウンド」

●EARとは？  
あらゆる分野に精通した  
英国屈指のブランド

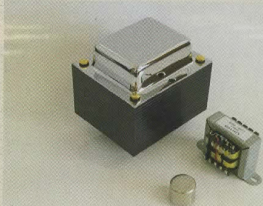
天才エンジニアあるいは時に鬼才とも呼ばれるティム・ネーパラヴィチーニが、1977年に設立した英国屈指のブランドである。アンプだけでなくCDやDACなどのデジタル機器、スピーカーなどあらゆる機材に精通し、ことに管球式製品は高い評価を得てきた。同時に録音スタジオなどプロの世界で絶大な信頼を持ち、録音機やミキサーなどの新規設計、修理、リファインなどの要請が引きも切らないという。

我が国でも人気が高いのは、フォノイコライザーなどのアナログ機器と真空管アンプである。ただしティム自身は、真空管の種類そのものには強いこだわりがあるわけではないらしい。もっぱら供給の安定性や信頼性などを基準に選び、それによってトランスの設計を変える。そこが一般の管球アンプブランドとは違うところだ。

現在のラインアップもCDプレーヤーからパワーアンプ、フォノイコライザーまで多彩であるが、前述のとおり中心となるのはやはり管球式プリメインアンプである。



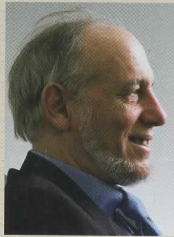
● EARならではの技術  
天才と称される理由は  
トランスの設計にあり



回路技術にも独自のものは少なからず存在するが、そういったことよりもここではトランスを挙げておきたい。アンプの設計はまず真空管を選び、それに合わせてトランスを作るところから始めるという。このトランスが全ての決め手であるということ、以前会った時に話していた。ティムがキング・オブ・アナログと呼ばれるのもそのため、また天才といわれる所以もトランスの設計にある。なおバランス・ブリッジ・モードという接続は、真空管のカソードとプレートとトランスの巻線につなぐ独自の方式で、広帯域・低歪率を目的としている。

● ブランドが誇るポリシー  
電気回路のルールだけではなくアートなフィーリングも大切

音質的にワイドでクリアなサウンド、そして真空管らしさでもトランジスタらしさでもない、EAR独自の“My Fi”な音を目指しています。余計な色づけをせずに、自然な音の響きを得られるようにすることが重要ですが、電気回路のルールだけではなく、アートなフィーリングもまた大切にしています。プロフェッショナルの分野における装置類もたくさん手掛けて参りましたが、ホームユースの製品においてもそのフィロソフィーは同じです。アンプづくりのモットーとしては、教科書に載っているような回路の踏襲やモノマネではなく、外観のスタイルを含め、全て独自のデザインにこだわっています。常にチャレンジする気持ち忘れずに、設計と向き合うことが私のポリシーです。



EAR / Yoshino Ltd.  
Tim de Paravicini 氏

EARで使用されているスピーカー

「どんなスピーカーでもEARらしさを表現できると思います」と語る同社。事実EARのユーザーのお話をうかがっていると、現代最先端のモデルからビンテージ機、さらには自作スピーカーなど、さまざまなスピーカーを使用している方が多い。なお、EARを取り扱うヨシノレーディング(株)で輸入しているディアパソンのAsteraというスピーカーは、パラヴィチーニ氏がその音の響きを好んでいることから導入を決めたというエピソードは興味深いところだ。ポリシーでも語っているとおり、アートな感性を大切にしているEARだが、このことこそが前述のEARらしさが高く評価される理由となっているのだろう。(編集部)



ヨシノレーディング(株)で扱っているディアパソンのAstera (¥1,260,000/ペア、スタンドつき)は、パラヴィチーニ氏がその響きを好んでいることから導入を決めたとのこと

EARの主なラインアップ



EARの名が世界へ轟きかけとなったモノラルパワーアンプ509 II(¥1,878,450/ペア)



プリメインアンプの834 Custom(¥512,400)は、電源環境などに配慮して設計された日本限定モデル



同社初のソリッドステートを採用したプリメインアンプParavicini 312(¥3,129,000)

● 写真のモデル  
912 (写真左)  
プリメインアンプ / ¥2,079,000

V12 (写真右)  
プリメインアンプ / ¥942,900

SPEC

[912] ● フォノ入力: RCA×2 (MM/MC) ● ライン入力: RCA×3, XLR×2 ● テープ出力: テープモニター×1 ● 出力: RCA×2, XLR×2 ● ラインアンプゲイン: 14dB (775mV for 0dB V.U., 3V出力) ● S/N: 90dB (1V Out ref) ● 歪率: >0.1% (1kHz 3V出力) ● 周波数特性: 20Hz~20kHz (+0~-0.3dB) ● 最大出力: 6V 600Ω ● 入力インピーダンス (フォノ): 47kΩ (MM), 40/12/6/3Ω (MC) ● ゲインセッティング: 0/6/12dB ● 使用真空管: PCC88 (7DJ8)×5 ● 消費電力: 30VA ● サイズ: 490W×135H×270Dmm ● 質量: 13kg

[V12] ● 型式: 純A級、パラレルプッシュプル ● 出力: 50W+50W ● 入力端子: RCA×5 ● テープ出力: テープモニター×1 ● 周波数特性: 12Hz~60kHz (-3dB, 1/2パワー) ● 混変調歪: <0.5% ● 出力ダンピングファクター: 10 ● S/N: 93dB (<0.4mV) ● 入力感度: 400mV ● 入力インピーダンス: 47kΩ ● 出力インピーダンス: 4Ω, 8Ω ● 使用真空管: ECC83×10, EL84×12 ● 消費電力: 200W ● サイズ: 420W×440D×135Hmm ● 質量: 22kg ● 取り扱い: ヨシノレーディング(株)

Text by  
井上千岳  
Chitake Inoue

● EARの音  
従来のアンプとは違う  
次元の異なる音といえる

912はプロ仕様のプリメインアンプで、同社の最高峰。ことにフォノステージの精度に定評がある。またV12はプリメインアンプで、出力管にEL84をチャンネル当たり6本搭載している。動作はクラスAでノンNFB。代わりに独自のバランス・ブリッジ・モードと呼ぶ結線に対応する。

ここではV12だけの試聴に留めるが、同社のサウンドは基本的には従来の管球式アンプともソリッドステートとも違う、次元の異なる音といえる。

例えばピアノにしても芯が強く響きの密度が高い。高S/Nで低域の解像度にも富み、また余韻も澄んでいるが、真空管のひ弱な感触はなく、しかも弾力に溢れている。ブロックでもそうで、古楽器の音色は潤い豊かに引き出しながら、ぎゅっと中身の詰まった緻密さが出色だ。チェンバロも鮮やかだが、決して残響に溺れることがない。オーケストラは力強く腰が座り、一音一音がいていねいでエネルギーシユ。ヴォーカルでは切れの良いバックが活力一杯に鳴る。